

令和3年度 久御山町立こども園経営計画及び評価シート

久御山町立 さやまこども園 園長 内座 多恵

こども園の現状		保育・教育目標	経営方針			
<p>今年度は総園児 211 名でスタートした。 子どもらしい子が多く、保護者も園に対して協力的である。 新たな職員体制となり新規採用職員をはじめ、新しい担当配置に戸惑い、不安げな職員も見られるが、全職員で力を合わせて互いに支えながら保護者と共に子どもたち一人一人の育ちを支え合い、より良い保育を目指していきたい。</p>		<p>健康でたくましく心豊かな子どもに育てる ①仲良く元気に遊ぶ子ども ②素直で思いやりのある子ども ③自分で考え行動しようとする子ども ④自分の思いを豊かに表現しようとする子ども</p>	<p>・園児一人一人の良さを最大限に伸ばす就学前教育の充実 ・安心・安全なこども園の運営 ・久御山町教育委員会の基本方針に基づいた園小中学校の一層の連携推進 ・保育教諭の資質向上</p>			
こども園経営の重点		成果と課題				
乳児・幼児保育・教育	<p>○一人一人の乳幼児の見取りを大切にし、就学までに育てたい10の力の育成を目指す。 ○安全な環境のもと情緒の安定した生活の提供 ・保育者との愛着関係・信頼関係を育み、自己表出できるようにする。 ・家庭と連携を図り、規則正しい生活リズムと望ましい生活習慣を身に付ける。 ○就学前教育の充実 ・生きる力の基礎を育む保育・教育を推進する。 ・小学校や地域との連携・交流を図り、子どもの発達や学びをつなぐ。</p>	<p>○今年度も昨年度同様にコロナ禍の中、様々な行事が中止または縮小せざるを得なくなり、例年とは異った形での園経営となった。このような状況でも日々の保育の中でどのような工夫ができるかを職員みんなで話し合い、知恵を出し合う中で、職員が心を合わせ保育ができたと感じる。 ○広い園舎を活用した遊び・生活環境を工夫したことで子どもの伸びやかな姿が見られるようになった。 ○職員研修については、外部研修がweb研修に移行したことにより受講しやすくなった。今年度は一人1講座以上の受講を目標に実施したが、来年度も更にスキルを高めるための研修を推進するとともに、園内研修の充実も図っていききたい。 ●コロナ禍のため、園小連携についても交流や連携の機会を持ちにくく、職員同士が更に気軽に相談し合える関係になるような工夫をしていきたい。</p>				
	評価領域	重点目標(観点別)	具体的方策		評価	
健康	・明るく伸び伸びと行動し充実感を味わい、健康で安全な生活に必要な習慣を身に付ける力を養う。	・子どもの思いやペースを尊重した丁寧な関わりを通して、健康・安全な生活に必要な習慣を身に付けられるようにしていく。		3	3	3
人間関係	・身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感を育む。	・子ども一人一人をありのまま温かく受け入れ、信頼関係を築く中で安心して過ごせるようにする。		3	3	4
環境	・身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々なものに興味や関心をもつことにより豊かな心情や感性を育む。	・色々なものに興味・関心をもって見たり、触れたり・感じたりできるように一人一人の興味・関心を見つめ意図的・計画的に環境を構成する。		3	3	3
言葉	・思ったことや考えたことを自分なりの言葉で話そうとしたり、相手の思いや考えにも耳を傾けたりする意欲や態度を育む。	・心が動かされるような経験を通して、言葉を使って表現する意欲や相手の話を聞こうとする態度を育て、相手に重いが伝わる喜びを感じられるようにする。		3	3	3
表現	・感じたり、考えたことを自分なりに表現する力を培う。	・保育者自身が柔軟な姿勢で子ども一人一人と接し、豊かな感性をもつ。		3	3	4
年間評価	1 学期	2 学期	3 学期			
	<p>6月の緊急事態宣言及び臨時休園により参観行事等が中止となったため、写真の掲示やビデオを通して園での様子を保護者に知ってもらおう工夫をした。 コロナ禍の中での保育について職員間で話し合い、共通理解を深めることができた。</p>	<p>新型コロナに関しては一旦落ち着いてきたため、お月見会やクリスマス会等の園内行事は工夫をしながら行うことができた。運動会は昨年同様、スポーツ参観として実施したが、保護者にも概ね喜んでいただけた。</p>	<p>1月中旬から感染が拡大し、休園や学年閉鎖を余儀なくされた。生活発表会も中止し、特に5歳児は卒園式の練習も揃わない状況となった。こうした状況の中、職員が団結し、知恵を出し合うことで苦境を乗り越えることができた。</p>			